

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成20年9月4日(2008.9.4)

【公表番号】特表2008-505908(P2008-505908A)

【公表日】平成20年2月28日(2008.2.28)

【年通号数】公開・登録公報2008-008

【出願番号】特願2007-520458(P2007-520458)

【国際特許分類】

A 0 1 N 25/02 (2006.01)

A 0 1 N 55/02 (2006.01)

A 0 1 N 65/00 (2006.01)

A 0 1 N 59/00 (2006.01)

A 0 1 N 25/22 (2006.01)

A 0 1 N 37/06 (2006.01)

A 0 1 N 37/02 (2006.01)

A 0 1 N 31/02 (2006.01)

A 0 1 P 7/02 (2006.01)

A 0 1 P 7/04 (2006.01)

A 0 1 P 3/00 (2006.01)

【F I】

A 0 1 N 25/02

A 0 1 N 55/02 G

A 0 1 N 65/00 A

A 0 1 N 59/00 C

A 0 1 N 25/22

A 0 1 N 65/00 F

A 0 1 N 37/06

A 0 1 N 37/02

A 0 1 N 31/02

A 0 1 P 7/02

A 0 1 P 7/04

A 0 1 P 3/00

【手続補正書】

【提出日】平成20年7月7日(2008.7.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

水溶性の担体または希釈剤を含み、脂肪酸石鹼ベース、エッセンシャルオイル、及び重炭酸剤を含む、虫、ダニ、および真菌害虫を防除するための組成物。

【請求項2】

前記脂肪酸石鹼ベースが、保持されたグリセリンを含んだ少なくともひとつのサポニン化されたオイルを含む、請求項1に記載の組成物。

【請求項3】

前記脂肪酸石鹼ベースが、グリセリンを含んだ少なくともひとつの脂肪酸塩を含む、請

求項 1 に記載の組成物。

【請求項 4】

前記脂肪酸石鹼ベースが、約0.01体積%から約40体積%、約5体積%から約20体積%、または約10体積%から約15体積%で存在する、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 5】

前記エッセンシャルオイルが、約0.01体積%から約40体積%、約5体積%から約10体積%、または約1体積%から約10体積%で存在する、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 6】

さらに外来性グリセリンを約0.01体積%から約5体積%、または約2.0体積%で含む、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 7】

前記重炭酸剤が重炭酸カリウムを含み、前記重炭酸カリウムが約0.02質量%から約3質量%、または約0.02質量%から約2.0質量%で含まれている、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 8】

前記サポニン化されたオイルがサポニン化された植物オイルである、請求項 2 に記載の組成物。

【請求項 9】

前記組成物内に、前記石鹼ベースが約1質量%から約15質量%で存在しており、前記エッセンシャルオイルが約0.01質量%から約5質量%で存在しており、さらに食用オイルが約1質量%から約10質量%で存在しており、さらに前記重炭酸剤が重炭酸塩を含み前記重炭酸塩が約0.02質量%から約2.0質量%で存在している、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 10】

前記エッセンシャルオイルと前記食用オイルが異なったオイルであり、それぞれが前記組成物内に約0.1質量%から約10質量%または約1質量%から約10質量%で存在している、請求項 9 に記載の組成物。

【請求項 11】

前記エッセンシャルオイルがペパーミントおよびローズマリーのうちの少なくともひとつを含み、さらに前記食用オイルが綿種、大豆、およびなたねのうちの少なくともひとつを含み、さらに前記重炭酸剤が重炭酸カリウムを含み前記重炭酸カリウムが約2質量%で存在している、請求項 10 に記載の組成物。

【請求項 12】

前記重炭酸剤が、重炭酸ナトリウム、重炭酸カリウム、および重炭酸アンモニウムから成る群から選択された少なくとも一つの物質を含む、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 13】

前記石鹼ベース 及び 前記エッセンシャルオイルがすべて有機的なものである、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 14】

前記脂肪酸塩がオレイン酸を含む、請求項 3 に記載の組成物。

【請求項 15】

さらに安定剤として作用するに十分な量のビタミンEを含む、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 16】

水溶性の担体または希釈剤を含み、非石油系の食用オイルおよび重炭酸剤を含む、ダニおよび真菌害虫を防除するための組成物。

【請求項 17】

前記非石油系の食用オイルが、約0.01体積%から約40体積%、約5体積%から約10体積%、または約1体積%から約10体積%で存在する、請求項 16 に記載の組成物。

【請求項 18】

さらに外来性グリセリンを約0.01体積%から約5体積%、または約2.0体積%で含む、請求項 16 に記載の組成物。

【請求項 19】

前記重炭酸剤が重炭酸カリウムを含み、前記重炭酸カリウムが約0.02質量%から約3質量%、または約0.02質量%から約2.0質量%で含まれている、請求項16に記載の組成物。

【請求項 20】

前記組成物内に、前記非石油系の食用オイルが約0.01%から約20質量%、または約0.1質量%から約10質量%で存在しており、さらに前記重炭酸剤が重炭酸塩を含み前記重炭酸塩が約0.02質量%から約5.0質量%、または約0.02質量%から約2質量%で存在している、請求項16に記載の組成物。

【請求項 21】

前記非石油系の食用オイルが、大豆、綿種、およびなたねから成る群から選択された少なくともひとつを含む、請求項16に記載の組成物。

【請求項 22】

前記非石油系の食用オイルが有機的なものである、請求項16に記載の組成物。

【請求項 23】

虫、ダニ、および真菌害虫を単一の組成物で防除する方法で；
前記方法が、少なくともひとつの害虫または前記少なくともひとつの害虫により敏感な植物の表面あるいはその一部に、殺虫目的で効果的な量の請求項 1～22のいずれかに記載の組成物を接触させることを含み、単一組成物において虫、ダニ、および真菌害虫の防除が可能となっていることを特徴とする方法。

【請求項 24】

少なくともひとつの害虫が、ダニおよび真菌から成る群から選択された少なくともひとつのものであり、さらに殺虫目的で効果的な量が、殺ダニおよび殺真菌の目的で効果的な量のうち少なくともひとつを意味している、請求項23に記載の方法。

【請求項 25】

接触が複数回の接触を含む、請求項23に記載の方法。